直孝
夏伊勢物語
下

伊勢傳受へ物

もなきれた恨まやうく
ちまた松はつ〳〵くもり
と業平の歌といらぐう
恨みくるれども秋のようえん
すいかのーと松やの恨と
よよそくくいつるし

七十三 せうそこをだに
をうそこいなかそこそこ
きーびとうとのうとかも
いつし河ともいさぬつ
○光よいそよいーー
月めうよ女をたくう
めうんなかくるにこれ
ぬのしたくく

七十四 ぶんのうたかろむ
ーーみんなかんぶそ
ものいのかーふたあるどぶ
すうこ我中よいかーと
もつぶてさんぶーあんん
して忘ーとうしー

七十五 おくそわん
家ーと初めーどまんとこ
○大ーぶの浜ーーーろ
ろーーまんとそこあよ

又れたこと

消まぎれつゝ三げの無人の所まで紙のづゝ

七十六 在二原原のまぎ

時。氏神よりゆうぜんのあつさにぐつ

ひけ。れたるなんぐ。ろ。ゝ。ゝ。ゝ。れ車

ゝ。れ。ゝ。ゝ。ゝ

西三条右大臣[実行]の女
うせ給ひて　天安二年十二
月二日ようせ給ふ　天安二年
安産なる　山科宮にわう
○ふんこと　[ひらかつ]ひらかつ
○ふくさを　[持統]持統
[此歌の]此歌よりの
月ふかの　[ゆ]ゆ
よなよ　[ハ]ハ
○そこ　[ゆ]ゆ
○ゆ　[こ]こ
おもひ　[ゆ]ゆ
○かの　[ゆ]ゆ
のはすの　[ゆ]ゆ
○ちの　[ゆ]ゆ
○えり　[ゆ]ゆ
き出　[ゆ]ゆ
ハ　[ゆ]ゆ
らと　[ゆ]ゆ
○山の　[ゆ]ゆ

七日ひ　[ゆ]ゆ
ハつ　[ゆ]ゆ
ゆ　[ゆ]ゆ
ゆ　[ゆ]ゆ
ゆ

[illegible]

○三条の[illegible]の中納言[illegible]へ

[illegible]

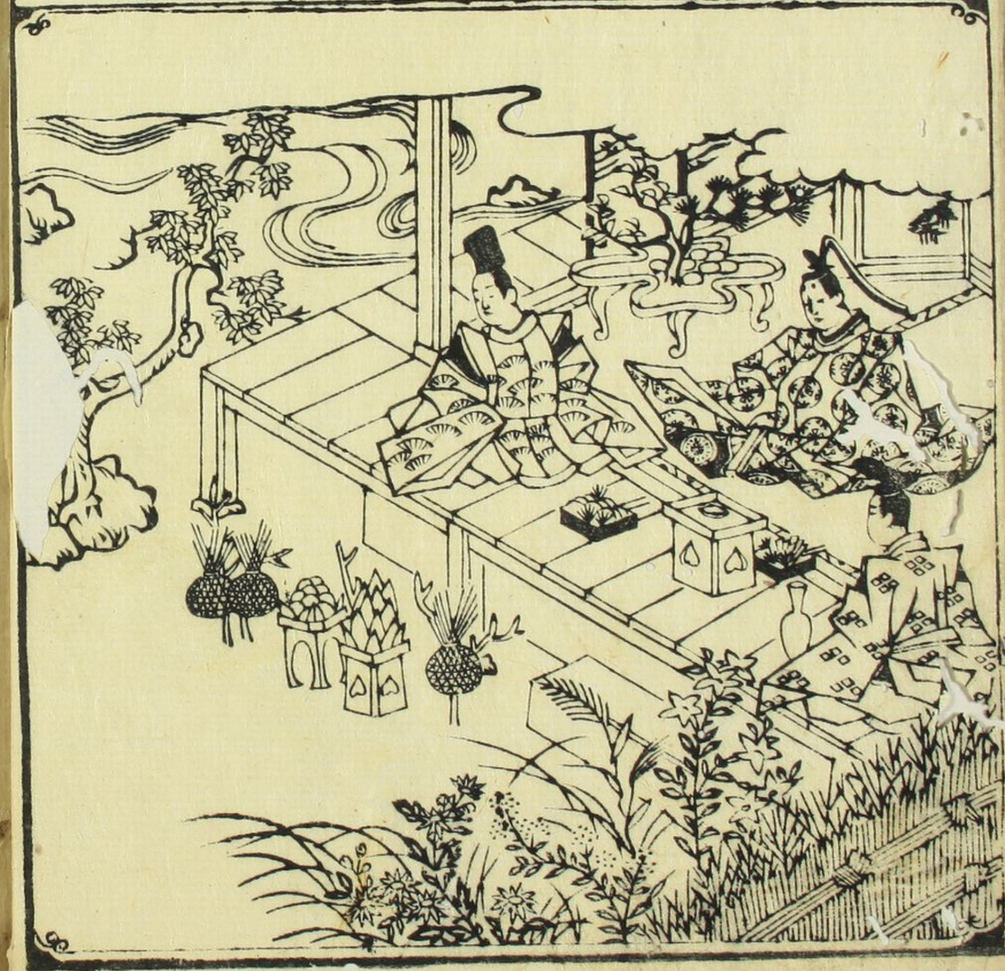
○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○[illegible]



八十二 惟喬乃親王 業平

久しく所よりの和上と天ちう
こちらのうしいさうちう
只業平にさいえれて
しくしやうのぬべし

○めでたりまきり
これうれしこ業平をつ王寺
毋ちうせのまへ死乃よ
ちうまたく。そ人のふた
ちうとれしきり 見給の
河し業平とたとけてう
ゆし業平しとて安の
ひまのみといひ
むこうとうけてみと
うけし。かのうちうの
女をのんし

○うのうし 月けいえう
月ちうまち

○世中にえて
業よ多世ハ花のうちうえん
とめさけいをうろよあく
がれてうをうちうたに
西よりとて年ちうを
つ世ハ人ハ西と年ちうこれ

ちうとのうとうの河上と天ちう
こちらのうしいさうちう
只業平にさいえれて
しくしやうのぬべし

八十二 惟喬乃親王 業平

○めでたりまきり
これうれしこ業平をつ王寺
毋ちうせのまへ死乃よ
ちうまたく。そ人のふた
ちうとれしきり 見給の
河し業平とたとけてう
ゆし業平しとて安の
ひまのみといひ
むこうとうけてみと
うけし。かのうちうの
女をのんし

○うのうし 月けいえう
月ちうまち

○世中にえて
業よ多世ハ花のうちうえん
とめさけいをうろよあく
がれてうをうちうたに
西よりとて年ちうを
つ世ハ人ハ西と年ちうこれ

久しく所よりの和上と天ちう
こちらのうしいさうちう
只業平にさいえれて
しくしやうのぬべし

○めでたりまきり
これうれしこ業平をつ王寺
毋ちうせのまへ死乃よ
ちうまたく。そ人のふた
ちうとれしきり 見給の
河し業平とたとけてう
ゆし業平しとて安の
ひまのみといひ
むこうとうけてみと
うけし。かのうちうの
女をのんし

○うのうし 月けいえう
月ちうまち

○世中にえて
業よ多世ハ花のうちうえん
とめさけいをうろよあく
がれてうをうちうたに
西よりとて年ちうを
つ世ハ人ハ西と年ちうこれ

八十三

昔水無瀬よりかなひ申されし事ぞ。これ無ふ人こぎいの
ちまつ。自ら。実ようの事ぞ。ちぎれ
てぞいうんと。ふみよ。ぬ。ぬ。ぬ

八十五

八十六

八十七

八十八

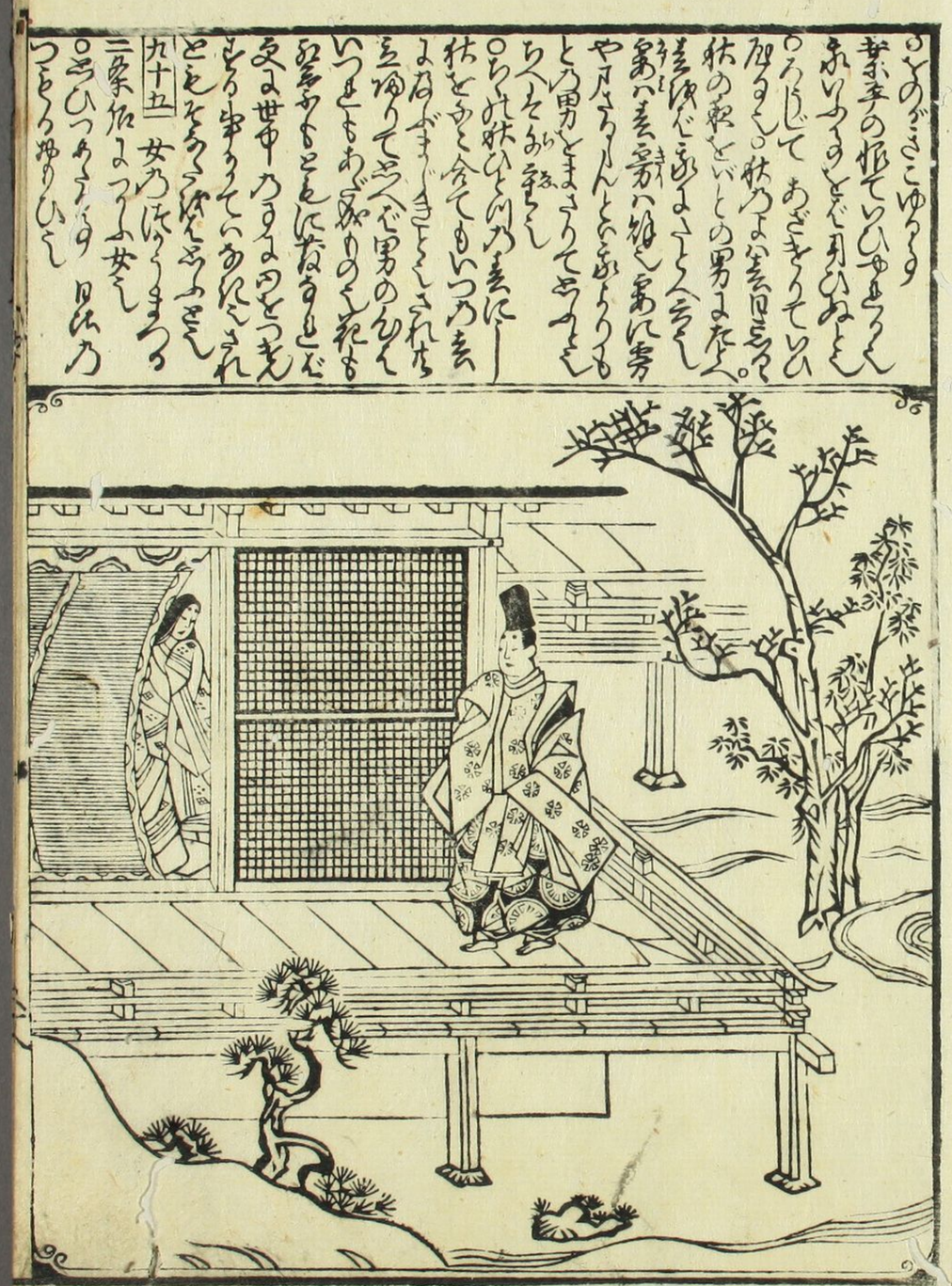
八十九

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九十
つまりたる人
九十一
九十二
九十三



九十四

九十五

女のたりうまつる二象ゐよつてふ女し
○さひつのうたよりひし
つとろゆりひし

○ものごさこゆるす
業平の恋ていひやるとて
ふりはつるとて月ひあとし
のろしじて あざきそていひ
かるし。秋のよ公ゐ日ゐて
秋の夜といとの男よたへ
ゐ法ゐ公ゐよさとへゐし
ゐ公ゐ男ゐ男ゐ秋し男ゐ
やゐ人さちんとゐふちうも
とゐ男とまさうてゐちも
ちへそゐ秋てし
○ちられ秋ひとゐ人ゐに
秋とゐと会てもいつゐ去
よねぶまーきとしされな
ゐゆりてゐへで男のゐて
いつもあぶゐりのゐ花も
ゐゐゐゐとゐになすゐで
ゐよ世中ゐすよゐとつゐ
ゐる中ゐていゐたゐされ
とゐをゐてゐをゐつさし

九十四 さて男ゐ男ゐ男ゐ

九十六

九十七

九十七

九十八

大阪大臣おにたのるし。つくるもの男　業平

九十九

百

百一

百二 女は秋をこそ。世中を知はてしらぬ。りとたぞ、ちうーちうこそ。
○そもそもとて——世をそむくとて。
百三 ○浮世の方にて。仏教をもとめ。

百三

百四

百五

百六

百七

百九　女はらの人とうかがひ　葉手の女はらよ

百十　こうひ美ほうの

葉手のこうひ美ほうの

百八　女ひとのみ　ちとうみ

風ふぐ　ふぐ　名ゑ　ゑ　時分に

百九　青男女ごろ　なつ　ゑ

百十一　青男　ゑ

百十二　青男　ゑ

百十三　青男　ゑ

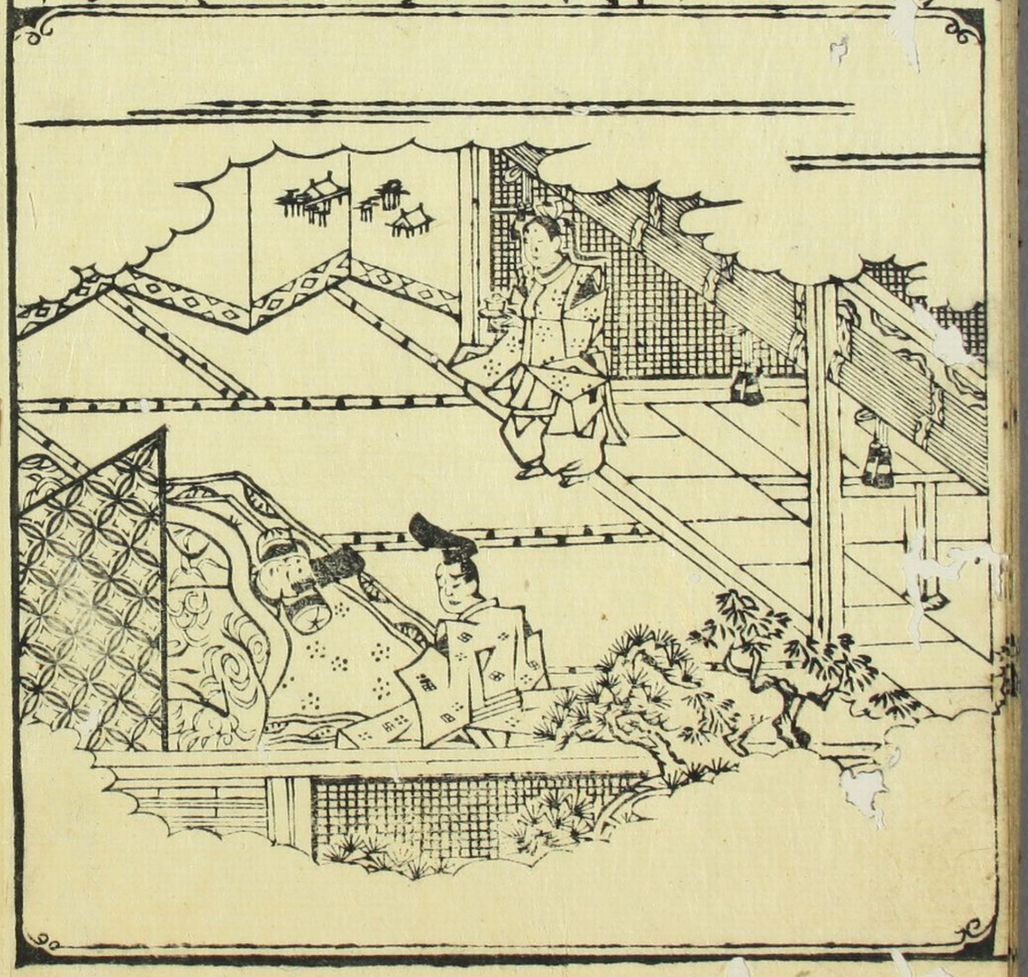
百十四　青仁

百十二　ゑ

百十三　下紙の　ゑ

百十四　ゑ

百十三 ゆかりて 葉平と
百十四 仁和の頃 皇孝天
皇し 公旅はれ葉平と
百十五
百十六
百十七 古の 左原
百十八 若男
百十九 若女
百廿 男女
百廿一 若男



百十七 出門行者に向ける文 延享元年

百十八 久しく来たりて

百十九 わさうの男

百廿 女のまさしくどとおぼえ

百廿一 若男ちぎられる

百廿二 若男

百廿三 女

[illegible]

百九十一 [illegible]

百九十二 [illegible]

百九十三 [illegible]

百九十四 [illegible]

百九十五 若男ものそぶらひ [illegible]

百九十六 若男いろりきるとき [illegible]

[illegible]

[illegible]

[